今后は農民と直結

人員二十に拡充、水田裏作も研究

県園試　独立は地元の責任

新潟県園芸試験場の独立昇格運動についてその概要は、本紙一月号に掲載したが地元市民の熱心なる協力や県内各郡市の農民の援助又各団体の理解の下に急速に進展し募金運動も順調に進んでおり関係者一同感謝しているが、本運動については地元たる当市の動きが最も大切であり、市農民の方からも色々意見が寄せられているので、本運動の意義や組織活動、昇格後の形態、機能や市の利益等について更に説明を加え、大方の一層のご理解とご協力をお願いしたい。（県園芸試験場期成同盟）

△昇格する意義▽

園芸試験場の必要なる事は農民はもとより一般の市民にもよく認識されていると思われるが、現在の新潟県に於ては園芸試験場の名称を持つ試験研究機関は何処にもない。僅かに当市七日町にある試験地が九人の人員で事業費年間約百三十二万円の少額で五町八反もある圃場を担任している。

このような状態では満足な試験や研究は到底実施することは無理であり現在の圃場を維持する事が精一杯である。

一方新潟県は別名農業県と云われる程農業の比重は重いが、現在の国内や世界の農業状勢からして今の儘の農業経営の在り方では健全なる発展を期待する事は出来ない。

必然的に花卉、球根、園芸、蔬菜、果樹等や又水☆

県下唯一つの園芸試験地を名実ともに農民の施設へ

☆田裏作、山間傾斜地砂丘地等の利用試験研究は刻下の急務とされている。よく云われる農業経営の合理化である。

ところで前に述べたような人員機構ではこのような農業状勢には対処できないので、何んとかして充実した試験研究機関を整備しなければならないと云う声が県内一般に澎湃と起きてきた。独立昇格と云うことは一口に云えば人員も機構も施設も整備充実される事である。「試験地」であれば一つの枠に制約を受けて、事業や予算の自主性が無くしたがつて農民に直結する試験研究が出来ないばかりか農民の利用も充分に行われない。

もちろん現在の社会状勢から一挙に整備充実は難しいが、漸進主義で期待に副うと知事も言明している。

例を隣県福島県の場合にとるならば、立派な「福島県園芸試験場」と云う名称の下に人員二十八名事業費五百二十万円、七町七反の圃場を擁し農民の要望に応えている。

見本園・展示圃も

専門技術員を常置

△独立後の設備と事業▽

当新津試験地の、独立昇格後の人員は二十名、事業費約三百六十三万円で、仕事も従来は農民と直接繋りを持たないと云われた果樹や蔬菜の品種改良等ももちろん必要ではあるが、直接農民と直結する技術研究と利用研究の二本立とし、従来何ら考慮されなかつた特殊地帯（砂丘地・山間傾斜地等）の利用も高度に研究し、更に販売経営の面も考え又水田裏作の利用研究も当然考えられる。

又一般農民のために模範圃・見本園・展示圃等を設置し専門技術員の常置を計る。更に施設として科学分析用（原子力利用）及輸出用農産物温度処理機具を計画、なお参観人の便益を計り休憩室や展示室を新増築する。これが大体の計画である

△期成同盟の組織▽

以上の点から期成同盟の組織も活動も全県的規模であらねばならぬ事は必定である。

先ず組織は実際の議決執行機関として委員会があり、各郡市からの代表者十七名と全県下の関係各団体からの代表者十一名と地元を代表して市長と議長が選出され総員三十名で構成している。役員については前号掲載の通りである。

したがつて運動も県民運動であり、各郡と新潟市に支部を置き趣旨の徹底と募金に活動協力している。

△当市の責務▽

なお当市に於ては果樹園芸面積は約三十数町歩に及び農産物に占める位置は大きく、チューリップ等は海外に輸出されている重要なものである。

又現在に於ける県市財政の実態からして種々の施設の新設誘致等は不可能に近く既有の施設の拡充強化より方法はない。

また七日町試験地は先輩各位が種々研究努力して誘致した施設であり、当市発展の為、又直接・間接農民に利益する所が大きいと思われる。

我々はその維持発展に努力する責任がある。

この様な次第であるから地元市民としては倍旧のご協力とご支援を切に祈つて止まない次第である。

贈られた11万6千円

暖い協力での歳末同情袋

暮れの歳末同情月間も市民の暖い協力で寄付金が、十一万六千六百七十三円雑誌七十六冊、ノート四冊、鉛筆四十八ダース、クレオン一〇箱が集つたこれを各管内民生委員を通じて市内の生活困窮者五百五十五世帯、二千百四十九人に贈つた。

軒雫

沢田新太郎

あけやらぬ森にこだまし幾万の男女のわめきまなかひにみゆ（弥彦惨事）

隣家に牛の餌切る音すがし歯をみがきつゝ心足らへる

軒雫かがよう朝の椽側に子も手伝ひて種豆を選る

（「短歌草原」同人・新津短歌会員）

土地改良区

総代選挙終る

投票率九割一分

新津郷土地改良区の総代選挙は一月二十二日の日曜日市内七カ所小須戸町二カ所田上村一カ所で一斉に行われたが、折からの悪天候にもかかわらず有権者の出足はよく投票率は最高九割八分最低でも八割四分で平均九割一分余の好成績であつた各選挙区の当選人計百四十二名は次のとおり。

△一区（五名）入倉惣太郎　小野隆作　本間藤吉　石川喜三郎　小柳松吉

△二区（一八名）海津平一郎　武田六太郎　渡辺積治　池田清六　土田亥五郎　吉田慶二　新井田義太郎　大塚始　小柳侃二　新井田政吉　鈴木仙太郎　堀内登一　田沢忠造　三浦保吉　沢松吉　海津樹太郎　野崎春作　竹石由太郎

△三区（一五名）阿達忠太郎　吉井喜代太　丸山純一郎　籔和清之十　木伏茂一　小川虎太郎　小林孝治　高山市太郎　石黒松衛　村山吉五郎　本望次作　丸山清三郎　佐藤八十八　武沢秀三郎　佐藤喜之亟

△四区（一三名）土屋義美　本間春晴　岩村惣昭　蜷野新吾　近藤文一　吉田孫英智　田中新次　栗原祐一　高野銀次　高橋健吾　吉田登代七　本間三治　高野清吉

△五区（一六名）小林信悟　佐藤十三作　土橋太郎　荒木又作　大島政一　本望虎雄　榎本常平　小林富則　阿部良作　小林健作　阿部太郎次　石月熊太郎　小林権一　本望茂雄　内藤重秀　関口三郎

△六区（七名）古川義朗　森山輝勇　高橋朋威　広瀬一太郎　押味弥惣一　広瀬清　高橋利男

△七区（一七名）渡辺勇作　長井忠太郎　横井正雄　山崎清作　中野熊一　渡辺清松　笠森銀次　箱岩義太郎　渡辺貫一　風間洋作　斎藤新一　山田金一郎　石井四郎　斎藤武雄　大倉寅吾　小柳稔　阿部一郎

△八区（一六名）甲田耕作　池田順吾　井浦清吉　中山修一　熊倉芳次郎　沢田秀作　青木勝三郎　清野秀夫　小野沢良吉　土橋富太郎　鈴木克司　井浦利平　土橋其次　山崎嘉三郎　甲田文治　岡崎太助

△九区（二〇名）梅川好雄　風間吉平　角田勘左エ門　樋口弥夫　灰野六衛　森田貞雄　近藤仁三郎　阿部良平　阿部三治　柴沢一徳　坂爪忠吉　石川徳栄　原田政男　町屋徳三郎　岡田与一郎　伊藤久吾　松本清松　藤田徳一　井越治三郎　佐藤佐市

△十区（一五名）森哲三郎　秋山辰次　稲垣五六　横山源吾　小池小栄太　本間正平　加藤久太郎　長谷川敬作　飯口吾市　森哲五郎　稲垣敏一　湯田貞一　仲川其一　岩淵盛治　五十嵐初太郎

（選挙管理委員会）

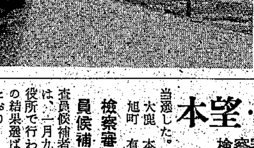
五中・結小増改築成る

第五中学校の特別教室平屋建築間八・五メートル、行間三三メートル、建坪八七・三七坪、ほかに廊下二八坪と防火壁一カ所の増築工事は、市内鈴木組K・K・請負で昨年十二月二十日着工し竣功は三月末日の予定。

なお結小学校の改築工事は昨年十月着工中のところ一月十四日竣功した教室二階建二教室で梁間八・五五メートル、行間二四メートル、延坪一二五・七坪、ほかに廊下一〇・五坪である。

北上・川口地内鉄道舗装事完成

新潟―新津線三十年度舗装工事は北上・川口地内間延長六九五メートルを昨年十月日本文化道路K・K・の請負で昨年十月着工し同十二月二十日竣功した。（写真は出来上つた同県道）（工務課）



能代川改修工事着工

三十年度の能代川改修工事は日宝町側宝田橋・新大橋間延長約三〇〇メートルの内下流付近から一五〇メートル実施に決り、市内大野建設K・K・請負で昨年十二月五日着工し三月末日竣功の予定構造は昨年度と同じで下部は「コンクリートパイル」を打込み、上部は割石練張工で内上流部分は、一部上部工を「パラペット」擁壁工である。

本望・有沢さん当選

検察審査員第一群決る

別項、昭和三十一年度の検察審査員候補者のうち第一群の検察審査員を決めるクジは一月三十一日新潟検察審査会事務局で行われたが本市の候補者のうちから次の者が当選した。

大関　本望ヨイ　51才

旭町　有沢ミイ　30才

検察審査員候補者

昭和三十一年度の検察審査員候補者を決めるクジは、一月九日午前九時市役所で行われたが、クジの結果選ばれた者は次のとおり

△一群　中野　角田三作、停車場通　河村善一、大関　本望ヨイ、山先　大野順二、旭町　有沢ミイ

△二群　西金沢　堀富士子、一之町　梶原かち、停車場通　青柳巌、停車場通　伊沢梅子、北上　斎藤助次郎、市之瀬　森田ヒサシ

△三群　柄目木　荒木和夫、滝谷　青木嘉吉、山先　清野市郎、中沢　小宮キヨシ、草水　長沢富一、大関　稲月富作

△四群　一之町　木津巌、北潟　志田キヨ、日宝町　市川タミ、満願寺　石川長太、西善道　加藤雪子、新町　田中ナヲ

農委選挙人地区別人員

（選管委）

昨年の十二月一日現在で調製した農業委員の選挙人名簿は一月二十日から縦覧に供され三月五日確定することになつているが、調製完了時の地区別登録人員は次のとおり

	世帯数	男	女	計
新津地区	三、八八四	二、七三五人	二、九二六人	五、六六一人
金津地区	六〇七	七九五人	九四五人	一、七四〇人
小合地区	七〇六	一、一八二人	一、三一四人	二、四九六人

北海道入植者募集

希望者は県開拓課へ

広大な未開発地を有する北海道で一般家族持の入植者を募集している。

これは毎年行われているもので、本県人は特に意志強固で成功者も多く開拓者としては適材と喜ばれている。

一般入植は入植が決定すると二十町歩位の土地の配分を受けて個人経営から出発することになるのであるが、これらの開拓者はこの土地のうち十町歩位畑にして雑穀や飼料作物を栽培し、その他の土地は薪炭採草地や宅地に利用、入植後十年乃至十五年位で完成形態に入るといわれる。（完成形態の目標は、農耕馬二頭、乳牛四―五頭、緬羊十頭位、豚二―三頭といつたところ）

この一般入植者のメ切は二月末日までであるから希望者は県庁開拓課に照会願いたい。

新有権者から感想文

公明選挙連盟で

この度公明選挙連盟・自治庁の主催で、新しく有権者となつた者から次のとおり「新有権者としての選挙に対する自覚」と題する感想文が募集される。

これは公明選挙運動の一環として行われるもので特に本年は参議院議員の通常選挙を目前に控えて、青年の情熱と実行力を促し、この運動の推進に役立てるための目的で計画されたものである。

◎標題　新有権者としての選挙に対する自覚

◎枚数　二百字詰原稿用紙十枚又は四百字詰原稿用紙五枚以内

◎資格　昭和十一年中に生れた者

◎締切　二月十五日

◎提出先　東京都千代田区―自治庁選管部宛

◎発表　四月二十五日

◎賞金　一等一篇二万円　二等二篇一万円　三等三篇五千円

◎その他　住所・氏名（ふりがなをつける）性別・職業を原稿の末尾に明記し、封筒に「感想文在中」と記載すること。